

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営の基本方針

「顧客第一」を創業理念とし、エネルギー・空気・水の環境対応技術を核にグローバルに事業領域を拡大し、安定的かつ持続的な成長を目指す

完成工事高
5,000億円超

自己資本利益率
12.0%以上

CO2削減(スコープ
53%削減

従業員数
7,200名

② 中長期の経営戦略

1. Innovative Engineer…

様々な工学分野の要素技術を複合化してシステムを構築し、スマートでカーボンニュートラルな産業発展に貢献。エレクトロニクス・自動車・医薬品・データセンター等の先端産業領域に注力

3. 成長産業への展開

半導体・電子部品・モビリティ・バッテリー・バイオ・医薬品・データセンター等の成長産業市場に注力し、技術革新で事業拡大を推進

2. Global Inclusion

20カ国30拠点のグローバルネットワークと5つのグローバル研究開発拠点を活用し、地球規模の環境・社会課題解決をめざしてローカルに根差したビジネスを展開

4. 環境システム事業強化

半導体分野での九州・東アジアプロジェクト体制強化、電子部品での水再利用・エネルギーマネジメント・海外電気事業強化、GXエンジニアリング技術開発

③ 対処すべき課題

① 財務戦略の実行

- ・政策保有株式売却50億円、投資前営業キャッシュフロー515億円活用
- ・成長投資380億円(R&D65億円、デジタル70億円等)を配分
- ・配当165億円、自社株買い150億円を実施

② グローバル人材基盤強化

- ・ASEAN地域から海外拠点の人材データベース構築・運用開始
- ・技術カルテによる可視化とマネジメント実現
- ・奨学金制度・大学連携・スカウティングで専門人材獲得

③ デジタルガバナンス強化

- ・成長戦略会議・デジタルイノベーション委員会を新設
- ・デジタル戦略委員会に5つの専門部会(BIM・コミュニケーション・ITガバナンス・AI・電子購買)設置
- ・グローバル共通システム基盤導入でガバナンス強化

面接で使えるポイント

- ・エネルギー・空気・水の環境対応技術を核に、2035年度に完成工事高5,000億円超を目指す
- ・20カ国30拠点のグローバルネットワークで地域戦略を展開し、非日系企業開拓も推進
- ・スコープ1・2のCO2を2022年度比53%削減、スコープ3で35%削減する脱炭素経営に注力

証券コード 1979

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）

－（推移を描ける期数の開示がありません）

暗記する数字3つ

連結売上高
2,861億円営業利益率
8.2%財務健康度
51点 /100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 67.9（当サイト算出の参考指標）

平均年収
1,160万円

建設業内 11位/140社

平均年齢
42.0歳

建設業内 94位/140社

平均勤続
15.2年

建設業内 84位/140社

女性管理職
3.8%

建設業内 51位/112社

男性育休
69.0%

建設業内 65位/104社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

